

伝播経路と対策

伝播経路	対策	原則
牛-牛	肉骨粉禁止 交差汚染防止 サーベイランス トレーサビリティ	増幅禁止
牛-人*	スクリーニング SRM除去 安全な解体法 トレーサビリティ	安全性確保
人-人	輸血・臓器移植禁止 疫学調査	予防原則

* 直接的食品安全性確保

BSE検査の目的

定義 : スクリーニングとサーベイランスの違い

スクリーニング : 感染牛を食物連鎖から排除

サーベイランス : 汚染実態の把握、蔓延防止対策の検証

日本 : 10月 9日 参議院予算委員会の厚生労働大臣の答弁

科学的考えでは30ヶ月以上の検査でよい

・しかし、検査済みと検査しないものがあっては国民の不安が解消されない

科学的なことはさておき、全頭検査が良いという意見を真摯に受け止める

10月 9日 厚生労働省「食肉処理時のBSEスクリーニング検査対象の拡大について」発表

30ヶ月未満の牛も含め全頭を検査する

10月18日 厚生労働省は年100万頭規模の全頭検査を層場で開始

厚生労働大臣・農水大臣記者会見

・と畜場でBSEに感染していないことが証明された安全な牛以外食用に廻らない

EU : 1999年 感染牛を食物連鎖から排除する (理想的レベル)

理想的レベルが合理的に保証されない場合の、第2レベルとしてSRMの除去

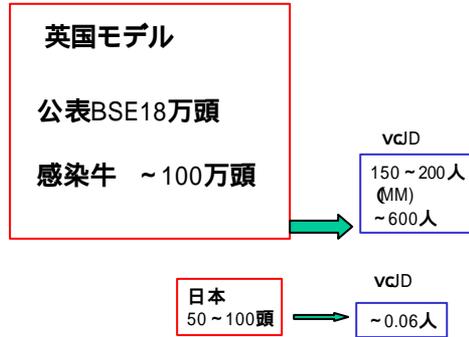
2001年1月実施

スイス : 1990年 SRM除去と受動的サーベイランス

1999年 迅速検査による能動的サーベイランス

vCJDの発生規模について

英国でのBSE数とvCJD数の相関を単純に日本に適用した考え方
(均一の場合)



実際には、不均一要素が存在し、これを考慮する必要がある
(vCJD患者発生 of 地理的分布、患者の年齢分布、全人口の遺伝子
タイプ、暴露量など)